

## JR小樽駅前広場再整備

### 検討委 3案に絞る

JR小樽駅前広場の再整備案を話し合う市の検討委員会（委員長・大津晶小樽商科大教授）は16日、市内で会合を開き、再整備基本計画の素案を策定した。素案では整備案4案のうち、駅前広場のオープンスペース確保や安全性の観点から3案に絞った。検討委は2022年度中に1案に絞り込みたい考えだ。

検討委は昨年2月の会合で、駅前広場のバスターミナルを、改築する第1ビルと1階部分に入れ込んで整備する「建物一体型」2案と、ビルの外にターミナルを配置する「平面型」2案の計4案を検討する方針を決定。歩行者の安全性などを調査してきた。

その結果、一体型の2案については、駅前広場で整備予定のオープンスペースが十分確保でき、「市民や観光客の利便性が高まる」検討委の観点から高い評価となった。平面型の案のうち一つは、歩行者の安全性が確保されている点が評価された。残る一つは、駅前広場への車の出入りがしにくいなどとして採用されなかった。

（鈴木孝典）